

製品名: Gy 5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11869**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GNG5
別名	GNG5; GNGT5; Guanine nucleotide-binding protein G(I)/G(S)/G(O) subunit gamma-5
遺伝子 ID	2787.0
SwissProt ID	P63218
免疫原	抗血清はヒト GNG5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

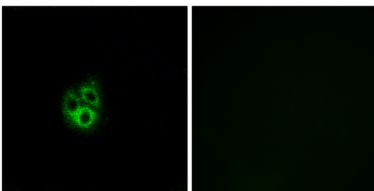
G タンパク質サブユニットガンマ 5 (GNG5) ホモサピエンスの G タンパク質は、細胞表面受容体から様々な内部代謝エフェクターへの情報の流れを制御する三量体 (α - β - γ) の膜関連タンパク質です。G タンパク質と活性化受容体の相互作用により、 α サブユニット

トに結合した GDP と GTP の交換が促進されます。α-GTP 複合体は β-γ ヘテロ二量体から解離し、サブユニットがエフェクター分子と相互作用して制御できるようになります (Gilman, 1987 [PubMed 3113327]; Ahmad et al., 1995 による要約) [PubMed 7606925]。[OMIM 提供、2010年11月] 機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスデューサーとして関与しています。ベータ鎖とガンマ鎖は、GTPase 活性、GDP から GTP への置換、および G タンパク質とエフェクターの相互作用に必要です。類似性:G タンパク質ガンマファミリーに属します。サブユニット:G タンパク質は、アルファ、ベータ、ガンマの3つのユニットで構成されています。、

研究分野

ケモカイン;

画像データ



GNG5 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。